



書道の楽しさを多くの人に伝えていく...

奈良 貴美子 さん (瀬尾在住)

教室を始めたきっかけは?
 児童相談所や保育施設などで働いた後、結婚を機に平成30年に市内にマイホームを建てました。
 その際に「子どもたちに書道の魅力を伝えたい」という思いから、自宅の一部を利用し、教室を始めることにしました。

書道と家事・育児や保育士との両立の仕方は?
 家族の理解と協力が大きいです。家事を分担する他、忙しいときには、子どもに自分の状況を説明し理解してもらえようにします。夫は、私の時間の使い方を尊重し、

今後の抱負は?
 今は再来年の「栃木県展」に向けての作品づくりを行っています。何点も作品を出品するので大変ですね。また、書道教室を続けて、子どもから大人まで多くの人に書道に触れるお手伝いができればと思います。作品の質を高めるためにも、書道以外のことに積極的に触れて、感性を豊かにしていきたいです。

♡ インタビューを終えて

「スーパーウーマン」という言葉を思い出しました。書道、家事、育児、仕事など、多くのことをこなしながら楽しんでいる生活を笑顔で語ってくれた奈良さん。
 「デジタル化が進む今だからこそ、文字を書くことの大切さ、楽しさを多くの人に伝えたい」というお話もあり、私も字を書くことを改めて大切にしていきたいなと思いました。

第35回全国臨書模刻展で心芸墨美大賞を受賞した奈良貴美子さん
 (雅号は「奈良浄光」)。
 奈良さんは3児の母でありながら、書道教室で指導にあたる他、市内保育園に勤務し、夫の実家の会社の手伝いも行っています。そんなバイタリティ溢れる奈良さんにお話を伺いました。

現在の教室は?
 今市地域を中心とした小学生を対象に教室を行っています。また、大人の方も回数制で都合の良いときに来てもらい指導をしています。
 今はコロナ禍で機会がなくなりましたが、近所の高齢者施設にも出張し、書に親しむお手伝いもしています。

書道の魅力は?
 「臨書」とは、古代中国などで書かれた文字を模写するものです。当時の時代背景を理解しながら、作者や当時の人々の置かれた状況や気持ちなどを考えて取り組むおもしろさがあります。
 今回受賞した作品では、王羲之の書「蘭亭叙」(353年)の時代に合わせ塗料を薄め、画仙紙を自分で染めました。紅茶やタマネギの皮を煮出して染めることもあります。「書」には文字を書くだけでなく、「芸術作品」として取り組む魅力があると思います。

